雑誌メディアを通じたパソコンソフト探訪

高 橋　三 雄

私がなぜ麗澤大学に移るようになったのか、それは一橋大学の恩師、宮川公男先生のお誘いがあったからだろうと思う。ちょうど、麗澤大学大学院開設申請に関して、教員スタッフを揃える必要があり、国立大学の教授の立場であった私が何かと都合がよいというご判断であったかと思う。現在は、教員スタッフの採用は公募が基本で、学位や業績など、厳しい審査があり、いまなら、とうてい採用の通知をいただくことはできなかったことだろう。それはともかく、1998年、筑波大学から麗澤大学へ移ったあとも、その時代時代の情報技術に強い関心があったことはいうまでもない。そして、情報技術に対する関心を個人的なものにとどめることなく、雑誌の連載や外部における諸活動を通じて、おおげざにいえば、啓蒙活動を続けてきたのであった。

雑誌の連載は、長期にわたって行ったものとして、まず、「ソフトウエア探訪」bit（共立出版）：1990年1月号～ 1998年3月号、がある。たまたまbit編集長が知人であったこともあり、連載をスタートし、毎月、4ページの欄に、そのときどきのハードやソフトを具体的に話題にするという執筆作業を99か月にわたって行った。98年3月号の最終回は「さらば筑波大学」と題して、連載の思い出を語り、「平成10年4月、千葉県柏市にある麗澤大学国際経済学部に勤め始める……」と麗澤大学への期待を書き記したことが思い出される。

この最終回では、具体的なパソコンソフトとして、「DigitalMBA」を話題にしている。これはMBAの教材（マーケティングやファイナンスなど）がCD-ROMに収録されており、テキストおよび意思決定関連ソフトを使って実践的に学ぶことを目的としたソフトであった。99回、のべ318頁にわたる連載をざっと眺めてみると、意思決定関連ソフトの紹介がかなりあったことがわかり、私の当時の関心のターゲットをあらためて示してくれる。

研究室に閉じこもるのではなく、積極的に情報技術の世界に入り込みたいという私の希望は、業界の人々との付き合いに広がっていった。その一つは日本におけるWindows普及を目的とした業界団体Windowsコンソーシアムである。現在、パソコンとくに企業が使うパソコンの主流はWindowsパソコンである。1990年に設立されたコンソーシアムは、マイクロソフトをはじめ、主要なソフト会社やハードメーカーなどを会員として活発な活動を行ってきた。このコ

ンソーシアム設立直後から顧問としてかかわるようになり、やがて、月刊の会報に「Windowsソフトウエア事情」と題する連載記事を執筆するようになった。この連載はweb上にも公開され、現在もなお、Windowsコンソーシアム記念館とよばれるホームページ上に残されている。連載は1996年1月から始まり、2000年9月まで、67回にわたって続けられた。

いま、web上に残されているこの連載を開いてみると、麗澤関連の話題もいくつか見ることができる。その一つ、「電子ブックに見る麗澤大学誕生のいわれ」（1998年7月）は、たまたま新橋の居酒屋（「銭形」）のおかみさんが、モラロジアンであったことから、移ったばかりの麗澤大学が話題になったということを記事の冒頭におき、廣池千九郎先生の著作集を収録したCD-ROM（当時としては最先端のソフト）を、画面例をまじえながら紹介するという内容であった。あらためて読むと、懐かしいとともに、モラロジアンの広がりを実感させられる。

麗澤とのかかわりをもう一つ、「瑞浪（みずなみ）から愛をこめて」（1998年6月）は、「本年4月に千葉県柏市にある麗澤大学国際経済学部に移ってから私の生活は一変した……麗澤はじつにめぐまれた大学で研究室棟に宿泊ルームが用意してあり、学内に泊まることにしたのである……朝の食事は学食で学生と一緒に食べることとなり、大学（青春）時代に戻った気がする……」、と新しい環境を楽しそうに紹介することから始まり、たまたま、麗澤高校と麗澤瑞浪高校のインターネットによる遠隔授業を、私が瑞浪側で行うという試みを話題にしていた。いまでこそ、ネット上の授業はありふれたものとなっているが、15年前はまだまだ、新しい試みであったといえるだろう。

ついでにもう一つ、「夢をクラシックカーに乗せて」（1998年10月）は、クラシックカーマニアである知人のシドニー在住のオーストラリア人が、1933年式のロールスロイスを横浜まで運び、1か月かけて日本縦断の旅を敢行するというので、そのお手伝いをしたときの話題である。知人は、タイプ練習ソフト「TypeQuick」の開発会社の社長であり、私も2度ほど、シドニーの自宅に遊びに行ったことがある。せっかくの機会なので、元気なシニアの姿を高校生に見せるのもよいかな、と思い、縦断の旅をさらに続ける途中、瑞浪高校に立ち寄ってもらうことにした。そのおりの瑞浪高校での歓迎ぶり（高校の当時のホームページにも掲載された）も記事の中で話題にしている。

雑誌におけるもう一つの長期連載は、公益財団法人 統計情報研究開発センターの月刊誌「エストレーラ」の、「広がりを見せるパソコンソフト」である。1998年4月号～2009年11月号の134回にわたった連載であり、タイトルのように、パソコンソフトを広くサーベイし、さまざまな立場で、その可能性を具体的なソフトの実践を例としながら、画面をまじえて話題にするという内容であった。10年間の情報技術の進展をつづった連載は、のべ646ページの連載記

事の最終回において、「大人の科学」（学習研究社）の1冊「特集：マイコンの時代」についてきた付録「マイコン：GMC－4」を紹介している。私にとって初めてのマイコンはたしか、1978年ころに5万円前後で購入した東芝製のマイコンキットだったと思うが、それと同等のマイコンが、雑誌付録としてついてきたことから、情報技術の驚異的な進展をあらためて実感させられた。

さて、紙の雑誌連載は終了した。しかし、いまなお、新たなハードやソフトの話題は絶えることがない。そこで、それらの話題をベースにしながら、麗澤大学オープンカレッジ（ROCK）のメルマガの連載をはじめた。すでに140回を超える長期連載となったこのROCKメルマガは、退職後も、継続していきたいと思っている。メルマガを通じて麗澤大学とのかかわりを続けることができればさいわいである。